認め励ましながら校内行事などに積極的に参加させ，自信や充実感を持たせる。

③　部活動など，目的を持って努力することの大切さや責任感を育てる。

(2)　家族に対して

①　学校での本人の良いところを知らせ，家族の気持ちを安定させる。

②　家族関係を見直させ，温かい雰囲気を作らせる。

(3)　学校で

学年内での共通理解を図る。特に部活動顧問とは，役割を分担して指導援助に当たる。

7.　予防援助（指導援助）の経過

〔積極的なラポールづくり〕

・　4月下旬　校内陸上大会にB男が何も希望しないのが気になり，放課後，短距離走に出てみないかと話しかけた。2日後，B男は担任に出場したいと申し出た。

〔行事への参加とB男の努力〕

・　数日後，相談室でB男に運動や家庭，友達のことについて聞いた。担任の言葉かけによって出場する気になったこと，家は面白くないことが分かった。担任は「力があるのだから全力を出し切れば1位になれる」と励まし，クラス全員で応援することを約束した。B男の目が輝いた。翌日から，朝早く起きてトレーニングし，大会では見事1位になった。担任がクラスでB男の努力を全員に話すと，恥ずかしそうに聞いていた。

〔家族とのラポール形成〕

・　5月下旬　家庭訪問。両親に対して，B男の大会での頑張りと努力を褒めた。成績こそ下がっているが，部活動や日常生活でのB男の長所を繰り返し話した。また，姉の「家出」事件には直接触れず，家族の温かい受容的な雰囲気が，子供の能力を伸ばし育てることに気づかせた。

・　7月上旬　ＰＴＡの懇談会で母親は，家庭でのB男の眼が暗く反抗的だと語った。担任は，体育館に母親を案内し，バレーボール部の練習風景を見学させた。部活動顧問の熱心な指導もあって副部長に選ばれたB男は，汗まみれになってボールを追っていた。「一つのことに打ち込める人間がB男君です。勉強のことも，そのうちきっと意欲が出てくるはずです。信じてあげてください。毎日一つだけでいいですからB男君を褒めてください」担任がそう言うと，母親はまだ半信半疑の面もちだった。

〔家族関係の変化と新しい意欲〕

・　9月　B男は担任に，父親が部活動をやめて勉強に専念しろと迫っていることを相談した。担任がB男自身はどうしたいのか尋ねると「部活動を続け，勉強もしたい」という。それなら，両親に自分の気持ちを素直に伝えるように勧めた。

・　10月　突然父親が来校し，最近B男が毎日勉強をするようになったことを話し，感謝した。B男は，A高を進学目標に決め，部決動で疲れて眠くても毎晩机に向かっているという。「最近，授業中の態度が意欲的になっています。ご両親でB男君に一生懸命かかわったからでしょう。本当にご両親に感謝します」そう答えると，父親の顔に満面の笑みが広がっていった。

8.　考察

この事例は，本人の得意なもの，熱中できるものを生かしながら，家族のかかわりに変化を与え問題行動を誘発する状況を変えていこうとしたものである。要点として次のことが言えよう。

(1)　本人の問題点を日常観察，家庭からの情報，心理検査等から早期にとらえた。

(2)　前担任や指導要録などから必要な資料を収集し，背景を分析しながら指導援助を進めた。

(3)　直接問題点を改めさせようとせず，本人の得意なものや，部活動を通して指導援助することによって自信を持たせ，成長を図った。

(4)　養育に自信を失っている両親の気持ちを安定させ，温かく受容的な雰囲気を作らせた。

(5)　部活動顧問と連携を図ることで，本人の学校生活を充実させ，新たな意欲を引き立てた。